

■（68）交通手段がなくて現場に行けない時…

日本海側を中心に各地で豪雪が続く。岩手県内の被災地でも積雪に加え、氷点下まで気温が下がり、水道管の凍結が相次いでいる。そんな折、秋田県の岩手県境に近い温泉で雪崩が起き、湯治客が巻き込まれた。冬は雪上車で行くような雪深い場所だった。

今回のように、災害が発生したとの一報を得ても、道路事情などでなかなか現場まで行けない例は少なくない。青森県内で一晩、道路に何台もの車を取り残された現場もそうだ。夜間や吹雪の中にヘリコプターで向かうのは難しい。それでも何が起きているかはニュースとして伝えなければならない。新聞社やテレビ局がまず考えるのは電話の利用だ。直接の当事者は電話に出る余裕もないため、おのずと周囲の方にかけてみることになる。電話帳などで番号を探し、目撃談を集める作業だ。「大変な状況に申し訳ありません」と電話口で謝りながら何が起きているかを尋ねて、なんとか出来事の輪郭が見えてくる。

そんな手法も最近、しばみつつある。個人情報保護から、電話帳に番号を載せない人が増えたためだ。代わってインターネットで読者から「情報」が届く時代になってきた（山）